

暮らすように楽しむ

東栄町のじかん

冬
2021

新潟県出身の星野克之さんは知り合いを通して東栄町へ移住「NPO法人ではへのスタッフとして働いている。茨城県出身で薬剤師の弓夏さんとは東日本大震災の際にボランティアで行った石巻で知り合い、東栄町に来てから結婚。この家は2018年に購入し、翌年から改修を開始。仕事の合間に主に夫婦で作業を進めている。床板は全剥がし、断熱材を入れて組み直し、浴槽やシステムキッチンも掘り出し物の新品をネットで見つけ、パントリーを新築して設置した。この大きな家を仲間が気軽に集える場所にしたと、近づく夢の完成を前に克之さんは語ってくれた。



↑お子さん2人の4人家族。新しい家で暮らしが待ちどしい！



↑大黒柱を含む柱の傾きも直したという。もはやプロのDIY職人

DATA
地区/柿野、築年数/約150年、木造2階建
土地/建物面積230㎡、農地4900㎡、山林1900㎡



↑靖史さん作「清明くんのお店」お店ごっこで想像力を掻き立て、「森のようちえん」でも子どもたちに大人気。

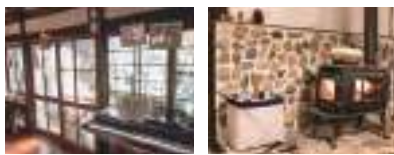


↑最初はお風呂だったというトラム缶の薪ストーブも自作。

DATA
地区/下田、木造1階建、築年数/約70年
「森のようちえん」は周辺の空き地を活用



↑公一さんにとってDIYは日常の一部。いつかは一人娘の嫁（はすみ）ちゃんの部屋作りも考えているそう。



↑木漏れ日が優しいリビング。ストーブコーナーは夫婦共同作。

DATA
地区/本郷、築年数/約100年、木造2階建
間取り/8LDK(178㎡)、土地/915㎡



↑弾ちゃんと仲良しの焚火ちゃん。料理好きな貴さんの仕事場でもある。

田舎暮らしの醍醐味

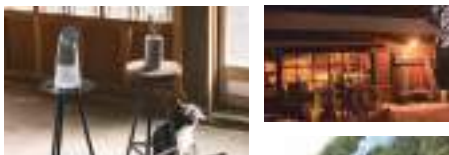
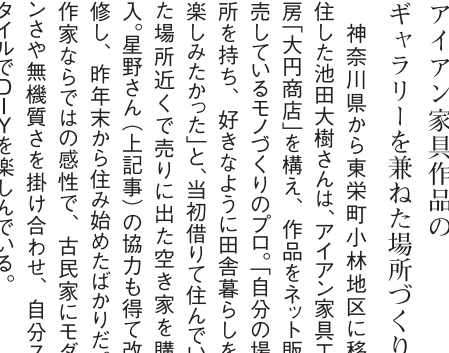
古民家 DIY

東栄町へ移住して、自分スタイルの古民家暮らしを叶えた人々を紹介！



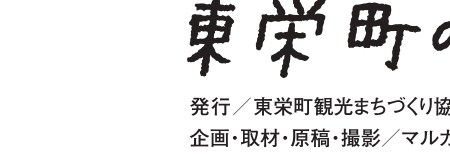
↑床や壁を大胆に改修。この空間は商品撮影のスタジオにも。

DATA
地区/小林、築年数/約95年、木造平屋(屋根裏有)、
元の間取り6Kを4LDKに 土地/畑、駐車場など



↑高校の給食室を改修した工房(右上)と現在の自宅(右下)。消毒液を置くのに便利なアイアン脚のスタンドは売出し中の商品。

DATA
地区/小林、築年数/約95年、木造平屋(屋根裏有)、
元の間取り6Kを4LDKに 土地/畑、駐車場など



↑高校の給食室を改修した工房(右上)と現在の自宅(右下)。消毒液を置くのに便利なアイアン脚のスタンドは売出し中の商品。

DATA
地区/小林、築年数/約95年、木造平屋(屋根裏有)、
元の間取り6Kを4LDKに 土地/畑、駐車場など



東栄町のじかん

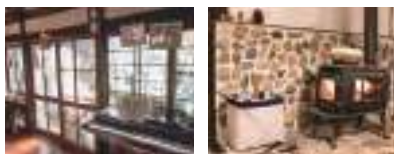
発行/東栄町観光まちづくり協会
企画・取材・原稿・撮影/マルカイ デザイン監修/星原真央美
住所/〒449-0206 東栄町大字下田軒山13-7
お問い合わせ/0536-76-1780(水曜定休日)
発行日/2021年2月20日
※本誌に掲載されている情報は2020年2月20日現在のものです。
観光情報はホームページをご覧ください。 東栄町のじかん 検索

「東栄を応援したい」サポーター募集中!
東栄町観光まちづくり協会は、観光まちづくり事業を通じて、魅力あるまちを未来へつないでいくために活動しています。そんな活動に賛同し、応援いただける会員様を募集しています。皆様のご協力をよろしくお願いします。
会費 1口年額1,000円以上
賛助会員 1口以上 正会員 2口以上

Pick up スポット!
尾籠地区「尾籠の岩山」の道中にはミツマタ群生地があり、可憐な黄色い花が楽しめます。4月頃は集落の中心で花桃が咲き乱れる様子も圧巻。
フォローしてね♪
Instagram
ミツマタ群生地(尾籠地区)



↑公一さんにとってDIYは日常の一部。いつかは一人娘の嫁（はすみ）ちゃんの部屋作りも考えているそう。



↑木漏れ日が優しいリビング。ストーブコーナーは夫婦共同作。

DATA
地区/本郷、築年数/約100年、木造2階建
間取り/8LDK(178㎡)、土地/915㎡



↑弾ちゃんと仲良しの焚火ちゃん。料理好きな貴さんの仕事場でもある。

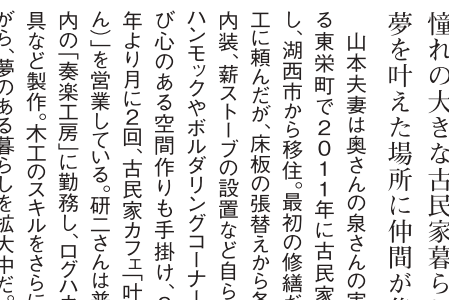


↑1日頃から子どもたちの友達や地域の仲間が集う。50人ほどの大人数のキャンプイベントが行われたことも。



↑子どもたちの要望に応じて、それぞれの部屋を作った。

DATA
地区/川角、築年数/約160年、木造2階建(1階7K、2階は1フロアに)、土地/宅地300坪、畑・田も各300坪



↑ワンフロアに改築された裏園芸たっぷり2階。カフェ営業日は月替わりランチや手作りおやつなどがいただける。和紙の明かりは研二さんの作品。



↑ワンフロアに改築された裏園芸たっぷり2階。カフェ営業日は月替わりランチや手作りおやつなどがいただける。和紙の明かりは研二さんの作品。

DATA
地区/川角、築年数/約160年、木造2階建(1階7K、2階は1フロアに)、土地/宅地300坪、畑・田も各300坪



INTERVIEW まちのこの人



山主たちの山への関心を取り戻すためには、「材の価値を上げ山主が利益を生むことが大事だと感じているからだ。」国としても、産業としてもっと国産材を使ってもらえればという意見も。組合では山主と相談しながら、日頃から間伐して山林に光を入れ、下草を

「あいち森と緑づくり税」を活用し、かつて繁栄を極めた日本の林業だが、その後は衰退の一途を辿った。国産材が余り始めると国の政策が見直され、補助金で山を整備するやり方へと変わってきたが、課題は多い。材が高値で売れていた時代は、田畑にさえもスギやヒノキを植えて人工林をひたすら増やしていた。しかし時代が変わると多くの山主たちが町を出て、材が売れなくなった山林は放置されたり、相続されずに持ち主不明になった。所有境界線がわからなくなり、手を出せない山林も多いという。



山主たちの山への関心を取り戻すためには、「材の価値を上げ山主が利益を生むことが大事だと感じているからだ。」国としても、産業としてもっと国産材を使ってもらえればという意見も。組合では山主と相談しながら、日頃から間伐して山林に光を入れ、下草を



森林組合は現在、事務職員9人、作業班は17人で半数が移住者。年齢は30～40代が中心。4人とも県内からの移住で、林業には東栄町に来て初めて携わった。

山主たちの山への関心を取り戻すためには、「材の価値を上げ山主が利益を生むことが大事だと感じているからだ。」国としても、産業としてもっと国産材を使ってもらえればという意見も。組合では山主と相談しながら、日頃から間伐して山林に光を入れ、下草を



山主たちの山への関心を取り戻すためには、「材の価値を上げ山主が利益を生むことが大事だと感じているからだ。」国としても、産業としてもっと国産材を使ってもらえればという意見も。組合では山主と相談しながら、日頃から間伐して山林に光を入れ、下草を

オンラインコンテンツ情報

<オンライン配信チャンネル>
おうちで! 東栄町のじかん
まちの素材を活かして楽しむ
スペシャリストをゲストに招き
東栄町の魅力をSNS等で発信中!
ネットショップとの連携企画など、オンラインならではの特別な企画もあり、要チェックです。

・和太鼓志多ら Youtube Live
東栄町を拠点に活動するプロ和太鼓集団「志多ら」による稽古場からのライブ配信。配信スケジュールはHPより随時公開中。

身体の芯からじんわりと温まる

天然療養泉 花まつりの湯

北設楽郡東栄町下田字花田21 TEL:0536-77-0268
営業時間 平日10:00～20:00(19:00最終受付) 土日祝 10:00～21:00(20:00最終受付) 定休日/水曜日(祝日の場合は営業)

とうえい健康の館
北設楽郡東栄町下田花田22-1 TEL:0536-77-2525
とうえい健康の館

REPORT 東栄町観光まちづくり協会の活動報告



今回の配信では、事前に特別商品をネットショップで販売。商品を購入してくれた方に限定公開でライブ配信をするという試みを行いました。20名近いお客様が特別商品を購入され、ライブ配信にご参加いただきました。

オンラインで届ける!「東栄チキンの魅力じかん」
今年度、観光まちづくり協会が新規事業として取り組んでいるオンライン配信チャンネル「おうちで!東栄町のじかん」。1月には、養鶏が盛んな東栄町でソウルフードとして長く親しまれている東栄チキンにスポットを当て、その魅力を紹介する企画を開催しました。自然豊かな環境で育った若鶏を使用する東栄チキンの製造過程や、鶏の生産現場、各商品のおいしさのこだわりをライブ配信で紹介しました。今後このチャンネルを通じて東栄町自慢の商品を紹介、販売し、生産者と消費者の懸け橋となる企画を作っていきたいと思ひます!

BEAUTY TOURISM ビューティーツーリズム

暮らしを感じる。自転車でまち巡り

山や川、各集落のさまざまな風景など、自然を近くで感じることができる東栄町のまちを自転車で巡る旅企画を、東栄町の地域ブランディング「ビューティーツーリズム」の一環として進めています。東栄町は山間のまちで坂が多く、普段は車での移動が一般的。しかし、ガイドと共に自転車でまちを巡ることで、車では見落としてしまう景色や小さな史跡など、よりローカルでディープなまちの魅力に触れることができます。

今年度は、まちの自然や文化を感じ、「生まれ清まる」体験を提供するビューティーツーリズムのプログラムとして、普段自転車に乗らない人でも楽しみやすいよう電動アシスト付き自転車をレンタルしてガイドモニターツアーなどを行ってきました。今後は、まちのカラフルなコンテンツを盛り込んだテーマ性のある自転車でのまち巡り企画を少しずつ開催していく予定です。皆さんぜひ、ご参加ください。

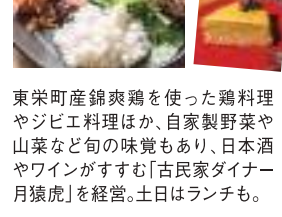


↑自然の中を風を感じながらゆったりと進む。一枚岩の川底やボートホールなど、東栄町らしいユニークな景色をガイドが案内。

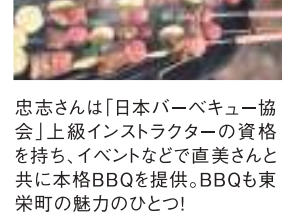
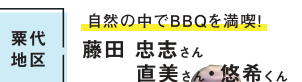
東栄町森林組合

山の未来に想いを向けながら 東栄の豊かな緑を守り育てる

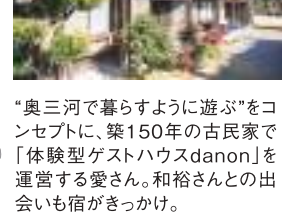
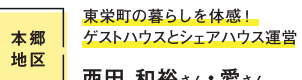
面積の9割以上を山林が占める東栄町。町の森林組合には現在1100人ほどの山主が組合員として登録されている。今回は他地域から東栄町に移住して林業に携わる、森林組合の4名のスタッフとお話を伺った。



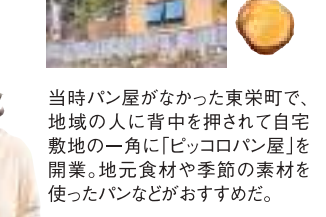
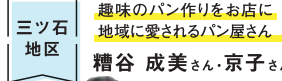
東栄町産鶏肉を使った鶏料理やジビエ料理は、自家製野菜や山菜など旬の味覚もあり、日本酒やワインがすすむ「古民家ダイナー 月狼虎」を経営。土日はランチも。



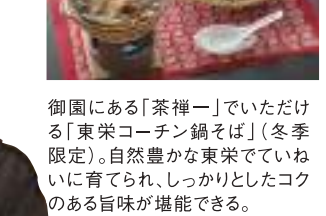
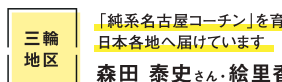
1. 2017年に名古屋より夫婦で移住。同年の11月に店を開業。
2. 田舎暮らしと飲食店経営の両立を目指す。
3. 組の役割割りを受けたり、祭りに参加したり、地域社会に溶け込みながら、自家栽培の食材利用で地産地消も出来るようになってきた。
4. 町の中心部から山間部まで空き家は増える一方。それらを活用して、人それぞれに合った暮らし方を選択できるのは良いんじゃないかな。



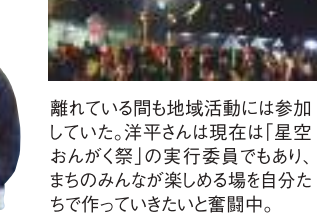
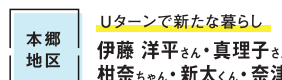
1. 愛さんは沖縄県出身で2012年三重県から、和裕さんは2020年移住。
2. 愛さんは地域おこし協力隊で、和裕さんは結婚を機に移住。
3. 宿を始めて5年以上が経過し、年間80泊に及ぶゲストが訪れるように。今では、キッチンカーでの料理提供やシェアハウス事業を展開。
4. 花祭は地域と触れ合うことができる貴重な機会。ぜひ参加して、地元の人と話して関わってみたい。とても面白いですよ。



1. 2012年空き家購入、関東より引っ越して移住定住したのは2017年。
2. 田舎暮らし希望と、奥さんの実家（豊橋）で親の介護のため。
3. 金土曜はパン屋営業、水曜は振替郵便局でも販売。普段は買い出しや仕込み、畑仕事など。賞状や絵、あまご釣りが始めました。当初は教室に通い学んでいたパン作りも、最近は新作を考えるのが楽しい。
4. 地域と気軽に交流でき、行事などにも参加できるのがうれしいです。



1. 孝史さんは2009年、絵里香さんは2018年に移住。
2. 古戸の養鶏場で名古屋コーチン生産のため。絵里香さんは結婚を機に移住。
3. 今までは仕事が多忙で生活は仕事中心。夫婦で協力し合い、ゆとりある暮らし方をしたい。「移住者」のままでなく、地域住民の一員となれば。
4. 東栄町の良い点は、巨く新鮮な鶏肉が食べられること(笑)! 移住のアドバイスは「移住前はよく考え、移住後はよく感じる」ことかな。



1. (洋平さん) 東栄町生まれで、結婚を機に豊川市へ。8年前にUターン。
2. 子どもが小学校に上がる前に住宅に空きが出たので戻ってきた。
3. 仕事の事情で1年前に本郷地区の住宅から下田地区の空き家に引っ越し。地区が変わることに最初は不安はあったが、順調に暮らしている。
4. 花祭はじめ、祭や行事で人と人とのつながりがある。移住してきた人たちも含めて新しい動きも多く、楽しく暮らすことができるまち。

移住ソムリエに聞いてみました

東栄町には、実際に移住者した人たちに話聞ける「移住ソムリエ」という制度があります。田舎暮らしに興味がある方へ、経験に基づいたアドバイスやヒントを尋ねてみました。

移住者の方々の一部を紹介

① 東栄町にいつ来ましたか?
② 東栄町に来た理由やきっかけ
③ 今の仕事や暮らしについて
④ 東栄町のおすすめポイント、移住やUターンのアドバイスがありましたら教えてください。

東栄町役場 地域支援課 尾崎あゆみ さん

下田地区

休日はお家でキャンプが趣味。煙やおまつりにも挑戦中!

星原 旅人さん・真央美さん

移住前からのキャリアを活かし、自宅でフリーランスのデザイナーとして活躍する真央美さん。休日は趣味のキャンプを楽しむことも。

1. 妻は2016年に、夫は転職で2013年に移住。
2. 東栄町で行われていた「結婚イベント」に参加し、そこで夫と出会い結婚をきっかけに移住しました。
3. 妻はフリーランスでデザイナーを在宅でしています。夫は東栄医療センターに勤務しています。お互い、以前の働き方と比べて時間と心に余裕が出来て、暮らしにメリハリを感じるようになりました。
4. 地元の方や役場の方がとても親切です。移住者に優しい町だと思います。

中設楽地区

サイクリングが大好き! 素敵なスポットをガイドします!

山下 康晴さん

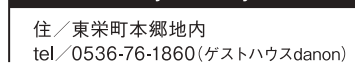
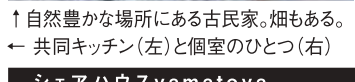
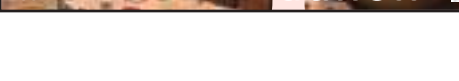
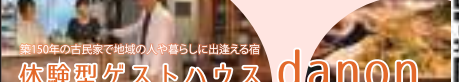
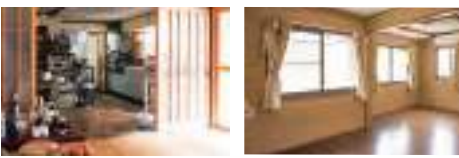
役場の観光担当を務める山下さん。仕事や趣味の経験を活かし、サイクリングコースの整備やイベント企画などに自転車でのまちづくりに携わっている。

1. 5年前に静岡県伊豆の国市から夫婦で移住。
2. 転職し、東栄町役場に就職した。
3. 町営住宅に暮らしながら、趣味の自転車やキャンプなど楽しんでいます。おいしい食べ物があるのも東栄町の魅力。名物「五平餅」も大好物!
4. 東栄町は自然が近くにあるから、趣味を生かして楽しむことができる余白があるのが良い。東栄町ならではの楽しみを見つけてみてください!

まちの暮らしとこんな場所

まずは滞在してみて地域と関わる

まちの暮らしを感じることができる宿「体験型ゲストハウスdanon」を運営する西田愛さんが宿の次に始めた「シェアハウスyamatoya」。宿を通じて東栄町への移住に興味を持つ人が少しずつ増えていると感じ、より地域と関わりつつ滞在できる場所を、中在家地区の空き家を借りて開設した。個室家賃は2万円～/月+共益費。共有スペースもある広い古民家で、同時に4組ほどの受け入れが可能だ。移住に向けて地域の暮らしを体験するだけでなく、個人の挑戦を応援・サポートする場所でもある。



まちの NEW SPOT

生まれ故郷に不動産業で貢献

三輪地区出身の矢澤さんは昨年、母親の介護のために名古屋から帰郷。まちに宅建資格を有する不動産屋がないことを知り、自身の資格を活かすべく2020年10月に不動産屋を開業した。役場と業務協定を結び、空き家バンクに掲載されている物件の売買賃貸等取引の仲介を行う役割を担っている。また、町内の空き家や土地物件所有者向けに無料相談会などの取り組みも始め、まちの空き家問題の解決に向けて活動している。

